

授業科目名	人 体 と 薬 物			担当教員	柳原 延章、高橋 浩二郎	
開講年次	2 年前期	セメスター	3	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	必修	授業形態	講義	使用教室		
授業の目的	薬物の体内動態と薬理作用について学習し、看護に必要な臨床薬理学の基礎知識を習得する。					
到達目標	1. 個々の薬物、あるいは一群の薬物について生体のどの部位に作用するのか説明出来る。 2. 薬物の薬理作用およびその作用機序を説明出来る。 3. 薬物の臨床応用について説明出来る。 4. 薬物の使用にともなう副作用の症状とその対策について説明出来る。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	この科目は〈リベラルアーツ・専門基礎科目〉であり、「人間」「環境」「健康」「国際」の4つの主要概念の「健康」に位置付けられている。看護に必要な臨床薬理学の基礎知識を理解する科目であり、看護の専門性を探求する力が重要となる。また、薬物使用にともなう副作用の対策を学ぶ臨床現場における看護の問題解決能力を養う科目である。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
				○	◎	
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	末梢神経系に作用する薬物 (I): 自律神経系と薬の作用・交感神経作用薬 (1)	講義	自律神経作用薬、特に交感神経作用薬について復習する	90分	柳原	
2	末梢神経系に作用する薬物 (II): 副交感神経作用薬・筋弛緩薬局所麻酔薬 (2)	講義	自律神経作用薬、特に副交感神経作用薬について復習する	90分	柳原	
3	中枢神経系に作用する薬物 (I): 全身麻酔薬・催眠薬・抗不安薬・麻薬性鎮痛薬 (3)	講義	麻酔薬、抗不安薬、麻薬性鎮痛薬等の中枢神経作用薬を復習する	90分	高橋(浩)	
4	中枢神経系に作用する薬物 (II): 抗精神病薬・抗うつ薬・パーキンソン症候群治療薬・抗てんかん薬 (4)	講義	抗精神病薬・抗うつ薬・抗てんかん薬等の中枢神経作用薬を復習する	90分	高橋(浩)	
5	心臓・血管系に作用する薬物 (I): 抗高血圧薬・狭心症治療薬・うっ血性心不全治療薬 (5)	講義	抗高血圧薬・狭心症治療薬・うっ血性心不全治療薬等の循環器系薬理学を復習する	90分	高橋(浩)	
6	心臓・血管系に作用する薬物 (II): 抗不整脈薬・利尿薬・高脂血症治療薬・血液に作用する薬物 (6)	講義	抗不整脈薬・利尿薬・高脂血症治療薬等の循環器系薬理学を復習する	90分	高橋(浩)	
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬 (7)	講義	オータコイドに起因するアレルギーや炎症反応に対する治療薬を復習する	90分	柳原	
8	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 (8)	講義	臓器別治療薬を復習する	90分	柳原	
9	物質代謝に作用する薬物 (9)	講義	ホルモン等の物質代謝に影響する薬物を復習する	90分	柳原	

10	抗感染症 (10)	講義	抗生物質等の感染症治療薬を復習する	90分	柳原
11	薬理学総論 (I) (11)	講義	臨床薬理学の基礎を復習する	90分	柳原
12	薬理学総論 (II) (12)	講義	臨床薬理学の基礎を復習する	90分	柳原
13	抗がん剤・免疫治療薬 (13)	講義	癌や免疫治療薬を復習する	90分	高橋 (浩)
14	薬害問題 (14)	講義	過去に起こった薬害事件について自主学習し、“発表”する	90分	高橋 (浩)
15	まとめと総復習 (15)	講義	薬物治療学全般について復習する	90分	柳原
先行履修 科目					
テキスト	吉岡充弘 他：系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 ③. 医学書院, 2018. (14版 2018年)				
参考文献	加藤隆一 他：NEW 薬理学. 南江堂, 2017.				
評価方法	主として定期試験 (90%) によるが、授業態度や授業参加度 (10%) などを加味して総合的に判断、評価する。				
教員等の 実務経験	医学部薬理学の科目担当教授の経験を生かして、病態生理学に基づいた薬物治療の基礎をわかりやすく講義します。				
メッセージ	臨床の現場で働く看護師にとって薬物の薬理作用や副作用の知識は、とても大切です。その薬物の基礎知識をわかりやすく解説し、さらに過去の国家試験問題を講義の中に取り入れた授業を行います。				